



DIGITAL HEARTS HDGS.

2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）



2023年2月9日

上場会社名 株式会社デジタルハーツホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 3676 URL <https://www.digitalhearts-hd.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 二宮 康真
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 CFO (氏名) 筑紫 敏矢 (TEL) 03(3373)0081
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	26,879	26.5	2,140	0.8	2,351	7.3	1,400	2.7
2022年3月期第3四半期	21,246	30.2	2,123	79.5	2,192	76.0	1,363	71.6

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 2,090百万円 (34.2%) 2022年3月期第3四半期 1,557百万円 (98.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	64.26	64.04
2022年3月期第3四半期	63.05	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	19,913	10,304	48.2
2022年3月期	17,565	7,576	39.9

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 9,604百万円 2022年3月期 7,004百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	7.50	—	7.50	15.00
2023年3月期	—	10.50	—		
2023年3月期（予想）				10.50	21.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	35,500	21.7	3,290	21.8	3,290	18.4	2,250	26.4	104.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
除外 2社 （社名）株式会社エイネット、株式会社レッドチーム・テクノロジーズ

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、四半期決算短信（添付資料）の9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	23,890,800株	2022年3月期	23,890,800株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,659,090株	2022年3月期	2,260,031株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	21,795,705株	2022年3月期3Q	21,622,324株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）の4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・四半期決算補足説明資料については、四半期決算短信開示後速やかにTDnet及び当社ホームページに掲載いたしません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

	2022年3月期 第3四半期 (千円)	2023年3月期 第3四半期 (千円)	増減率 (%)
売上高	21,246,042	26,879,428	26.5
営業利益	2,123,415	2,140,814	0.8
経常利益	2,192,295	2,351,905	7.3
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,363,214	1,400,619	2.7

当社グループを取り巻くデジタル関連市場においては、IoT(Internet of Things)の進展やDX(デジタルトランスフォーメーション)の加速等を背景に、コンテンツやサービスの多様化が急速に進んでおります。その一方、各企業においては、その開発及び運用を支えるIT人材が慢性的に不足していることから、ソフトウェアの開発、テスト、保守・運用、セキュリティ等の支援サービスを提供している当社グループの収益機会は、今後も引き続き拡大するものと見込んでおります。

このような状況のもと、当社グループでは、高収益事業であるエンターテインメント事業の下支えのもと、需要が急増するエンタープライズ事業の拡大に注力することで、さらなる成長を目指しております。

当第3四半期連結累計期間においては、注力事業であるエンタープライズ事業の売上高が、M&Aの効果もあり約1.5倍の成長を実現するなど、高い成長を継続するとともに、エンターテインメント事業も好況なコンソールゲーム市場等を背景に売上高2桁成長を実現するなど、両事業とも好調に推移いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、26,879,428千円(前年同四半期比26.5%増)と大幅増収を達成いたしました。また、利益面では、エンタープライズ事業を中心に、今後の成長に向けた人材をはじめとする投資をより一層積極化したものの、利益率の高いエンターテインメント事業の増収効果により、営業利益は2,140,814千円(前年同四半期比0.8%増)、経常利益は2,351,905千円(前年同四半期比7.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,400,619千円(前年同四半期比2.7%増)と前年を上回ることができました。

セグメント別の経営成績は、以下のとおりであります。

	2022年3月期 第3四半期 (千円)	2023年3月期 第3四半期 (千円)	増減率 (%)
売上高	21,246,042	26,879,428	26.5
エンタープライズ事業	7,937,561	12,066,159	52.0
エンターテインメント事業	13,308,480	14,926,328	12.2
調整額	—	△113,058	—
営業利益	2,123,415	2,140,814	0.8
エンタープライズ事業	403,195	313,931	△22.1
エンターテインメント事業	2,884,885	3,206,027	11.1
調整額	△1,164,665	△1,379,144	—

なお、各セグメントの売上高については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しており、セグメント利益は営業利益ベースとなっております。

①エンタープライズ事業

当セグメントでは、主に、エンタープライズシステムの不具合を検出するシステムテスト、セキュリティテスト、ERPの導入支援等を行うQA(Quality Assurance)ソリューションのほか、エンジニア派遣、システムの保守・運用支援等を行うITサービス及びその他のサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間においては、2022年4月のグループ組織再編でエンタープライズ事業の中核企業として新たに組成した株式会社AGEST(以下、「AGEST」)を中心に、強固な成長基盤の構築に向けた戦略投資を実施いたしました。具体的には、事業拡大に必要なエンジニアの確保やさらなる新規案件の獲得に向け、エンジニアに特化した勤務環境の整備やコーポレートサイトの刷新、様々なITセミナーの定期開催等を積極化することで、AGESTの認知度向上及び従来当社グループが有する“ゲーム・エンターテインメント”とは異なる“テック”系のブランディング確立に注力してまいりました。また、開発の最終工程におけるテストの実施だけではなく、開発の上流工程から品質を支える付加価値の高い“シフトレフト対応QAソリューション”の確立に向け、ソフトウェア開発の知見と高度なテストノウハウを両方有する“次世代QAエンジニア”等を育成するための教育機関や産学連携の先端技術研究機関を新設いたしました。さらに、“ミューテーションテスト”をはじめ、テスト専門企業ならではの知見を活かしたサービスの拡充に努めてまいりました。

また、当社では、エンタープライズ事業の成長スピードを加速させるため、M&Aを積極活用しております。当第3四半期連結累計期間においては、ソーバル株式会社の品質評価事業を吸収分割により承継し、約130名の経験豊富なテストエンジニアを獲得するなど、受注体制を強化いたしました。さらに、前期子会社化した企業とのグループ連携を強化することで、ERP領域における事業拡大を推進いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間のエンタープライズ事業の売上高は、M&Aの効果もあり、12,066,159千円(前年同四半期比52.0%増)と引き続き高い成長を実現いたしました。一方、セグメント利益は、当第3四半期連結会計期間では前年を上回ったものの、当期上期に今後の成長に向けた戦略投資を集中的に行ったことにより、当第3四半期連結累計期間では313,931千円(前年同四半期比22.1%減)となりました。

②エンターテインメント事業

当セグメントでは、主に、コンソールゲームやモバイルゲーム等の不具合を検出する国内デバッグサービスのほか、ゲームの翻訳・LQA(Linguistic Quality Assurance)、ゲーム開発支援、マーケティング支援等を行うグローバル及びその他のサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間の国内デバッグサービスでは、好調なコンソールゲーム市場における需要拡大を追い風に新規案件の獲得が進み、売上高2桁成長を実現いたしました。一方、グローバル及びその他のサービスでは、新型コロナウイルス感染拡大の影響等により、中国をはじめとするアジアゲーム市場の先行きが不透明になりつつある中、グループ連携を強化することでゲームの翻訳・LQA等の新規案件を着実に獲得いたしました。また、韓国の子会社において、ブランディング統一を目的とする商号変更やマーケティング機能拡充をはじめとする事業基盤の再構築を行うなど、継続的な成長に向けた取り組みを推進いたしました。さらに、株式会社GameWithと資本業務提携を締結し、提供サービスの拡充や新たな価値創造に努めてまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間のエンターテインメント事業の売上高は、14,926,328千円(前年同四半期比12.2%増)、セグメント利益は、3,206,027千円(前年同四半期比11.1%増)と増収増益を達成いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,176,172千円増加（前期比11.3%増）し、11,569,053千円となりました。

これは、主に現金及び預金が739,518千円、受取手形、売掛金及び契約資産が518,577千円増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,171,484千円増加（前期比16.3%増）し、8,343,963千円となりました。

これは、主に有形固定資産が407,440千円、事業譲受等によるのれんが319,241千円及び投資有価証券が281,401千円増加したことによるものであります。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ183,880千円減少（前期比1.9%減）し、9,495,466千円となりました。

これは、主に未払費用が110,961千円増加したものの、短期借入金が314,546千円減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ196,337千円減少（前期比63.4%減）し、113,337千円となりました。

これは、主に長期借入金が169,674千円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ2,727,874千円増加（前期比36.0%増）し、10,304,213千円となりました。

これは、主に配当による利益剰余金の減少390,792千円があったものの、新株予約権行使等により資本剰余金の増加が406,605千円、親会社株主に帰属する四半期純利益1,400,619千円、新株予約権行使等による自己株式の減少が676,885千円、円安により為替換算調整勘定が643,160千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間におきましては、概ね計画どおり推移しており、現時点において2022年5月12日付けで「2022年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」にて公表しました業績予想からの変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,208,746	5,948,264
受取手形、売掛金及び契約資産	4,411,554	4,930,132
有価証券	34,506	43,443
棚卸資産	17,367	34,417
未収還付法人税等	47,112	40,956
その他	741,693	661,293
貸倒引当金	△68,099	△89,454
流動資産合計	10,392,881	11,569,053
固定資産		
有形固定資産	693,353	1,100,794
無形固定資産		
のれん	4,763,421	5,082,663
その他	331,292	510,711
無形固定資産合計	5,094,713	5,593,374
投資その他の資産		
投資有価証券	236,595	517,997
その他	1,155,997	1,131,797
貸倒引当金	△8,181	—
投資その他の資産合計	1,384,412	1,649,794
固定資産合計	7,172,479	8,343,963
資産合計	17,565,361	19,913,017
負債の部		
流動負債		
短期借入金	5,421,296	5,106,750
未払費用	1,184,413	1,295,375
未払法人税等	511,871	280,313
賞与引当金	100,190	89,669
その他	2,461,574	2,723,357
流動負債合計	9,679,346	9,495,466
固定負債		
長期借入金	169,674	—
退職給付に係る負債	45,891	6,591
その他	94,109	106,746
固定負債合計	309,674	113,337
負債合計	9,989,021	9,608,803

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	300,686	300,686
資本剰余金	—	375,915
利益剰余金	9,021,248	10,031,075
自己株式	△2,545,696	△1,868,810
株主資本合計	6,776,238	8,838,867
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,921	△96,920
為替換算調整勘定	219,101	862,261
その他の包括利益累計額合計	228,022	765,341
新株予約権	—	6,569
非支配株主持分	572,078	693,435
純資産合計	7,576,339	10,304,213
負債純資産合計	17,565,361	19,913,017

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	21,246,042	26,879,428
売上原価	15,141,985	19,067,671
売上総利益	6,104,056	7,811,757
販売費及び一般管理費	3,980,640	5,670,943
営業利益	2,123,415	2,140,814
営業外収益		
受取利息	2,136	8,122
為替差益	10,420	200,151
投資事業組合運用益	12,321	—
助成金収入	44,728	6,179
その他	12,923	20,524
営業外収益合計	82,529	234,977
営業外費用		
支払利息	7,330	9,371
支払手数料	124	9,376
持分法による投資損失	4,687	—
その他	1,507	5,137
営業外費用合計	13,649	23,886
経常利益	2,192,295	2,351,905
特別利益		
固定資産売却益	1,233	—
債務免除益	66,979	—
新株予約権戻入益	13,363	—
受取和解金	—	41,616
特別利益合計	81,576	41,616
特別損失		
固定資産除却損	32,270	2,547
減損損失	9,333	—
事務所移転費用	12,059	4,600
本社移転費用	2,454	1,130
組織再編関連費用	20,594	—
事業整理損	—	23,354
和解金	—	37,842
事業譲渡損	—	108,786
特別損失合計	76,711	178,261
税金等調整前四半期純利益	2,197,159	2,215,260
法人税、住民税及び事業税	675,106	614,027
法人税等調整額	29,178	98,071
法人税等合計	704,284	712,098
四半期純利益	1,492,875	1,503,161
非支配株主に帰属する四半期純利益	129,660	102,541
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,363,214	1,400,619

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	1,492,875	1,503,161
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△89	△105,841
為替換算調整勘定	64,408	692,699
その他の包括利益合計	64,318	586,857
四半期包括利益	1,557,194	2,090,019
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,452,303	1,937,946
非支配株主に係る四半期包括利益	104,890	152,072

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。